

東光寺たより57

かされる一刻でした。そして千本鳥居を潜ってお願い事が成就しますようにと・・・はたして？

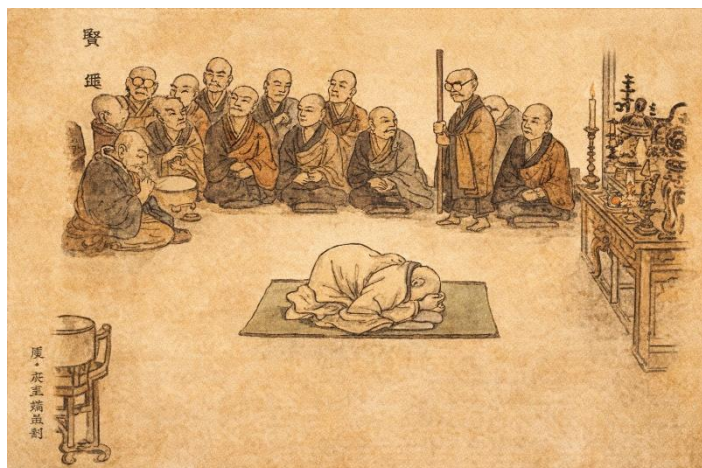
早起きの行方♪

僧堂の朝は早く、朝の勤行に出頭します。朝早くですから、手当てが付きそうなものですが、そんなものは付きません。手当の話は掴みで、肝になる思い出話に移行したいと思います。朝の勤行のお経はお経を始める係と木魚を打つ係に分かれます。そして皆で唱和します。この木魚を打つ係は新人が主に請け負う訳で、遅かったり早かったりするとたちまち罵声が飛ぶ訳です。打つ方は木魚が大きくて打つのも必死でした。そして新人の頃はお経の後に誦む回向（お経の功德が何処に向かっていってほしい文）が早口で何言うてるか分からない状態でしたし加えて眠い事この上なしでした。故人先哲の思いに触れ、更なる報恩の道を誓う一刻であります。冬は寒いし、夏は暑い。今となっては、その時の行い（朝の勤行）の行方は何処へ向かっているのか？一つだけ言えるのは住職がお経を誦む原点はまさにこの時に有ったであろうと思われま。その行方が今に繋がっているんだらうなと思いました。



いざ、僧堂へと♪

京都と大阪の境目に住職の以前お世話になった僧堂がございまして野菜等を持ってお邪魔してみる事にしました。伏見稲荷から電車に乗って揺られる事数駅。久しぶりにお邪魔して厳かな空気や雰囲気は以前のままでした。ひとしきり、道場の役位さんとグルっと見学して、住職も以前叩いていた木魚がこんなに大きかったらうか？と昔を懐かしんだのでありました。



そうだ♪京都へ行こう

早咲きの桜の便りもちらほら聞かれる頃に出かけたくなつた住職はとにもかくにも表記の地へと。主に京阪沿線の駅は伏見稲荷へと行ってみる事に。何回も京阪乗ってた割には伏見稲荷へ参った事も無くて行くのであります。観光客も多く、そんなあたくしがお坊さんだと分かると一礼される人やニコッと笑顔なもちらほらでした。よくよく考えたら坊さんだったなと気づ



妙心寺展へと♪

僧堂を後にした住職は、再び京阪に乗って一路天王寺へと向かいます。折しも市の美術館で表記の展示が行われているので観てみます。荘厳な展示はもちろんの事、開山さんが実際身に着けていたという絡子が展示してあり、実際身に着けていたのか？どうかは見て確認する事が出来ませんよね。ですが想像する事や想いを寄せる事は出来ます。こういった厳かな展示を拝見して、如何に今後に繋げていくかが大事だと思った住職でした



とあるフォトグラファーの訃報

当山に深い関わりの有った写真家の訃報が飛び込んできたのは先日の事でした。住職も画を撮るのをライフワークとしており、少なからず影響を受けた人物でした。ずいぶん昔、住職の生活を画に撮らせてもらえないかとオファーが来たのです。住職としては丁重にお断りしたのですが、現在、こうやってたよりを綴ったり、画を撮ったりしている姿が故人の生きざまにリンクしてきたような気がしてなりません。心して更なる精進を誓うのでありましたと同時に御冥福を祈ります。



人形供養を厳修しました

春の彼岸恒例の表記の供養をひっそりと身内だけで厳修しました。住職の学生時代から続くこの行事も数多の人形達を供養してまいりました。全ての人形達には魂が宿っております。こうして役目を終えた子達の足跡が安穩ならん事を祈ります。



文責 東光寺
英隆

諸行無常

万物は流転する。